

まずは、単元のねらいと評価規準を設定しましょう

ねらい 自分の休日の思い出について、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを発表することができる。

評価規準（「話すこと [発表]」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 思い出を紹介する語句や、I went to～. I enjoyed ～. I ate ～. It was ～.の表現について理解している。 <技能> 思い出を紹介することなどについて、自分の考えや気持ちを話す技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために、休日の思い出などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話している。	自分のことをよく知ってもらうために、休日の思い出などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを話そうとしている。

つぎに、ゴールを見据えて単元を構想しましょう

単元の指導と評価の計画

(○…記録に残す評価 空欄…指導に生かす評価)

時間	主な学習活動など	知	思	態
1	単元のゴールとなる言語活動「休日の思い出を紹介しよう」 教科書のやり取り（世界の夏休みの過ごし方）を聞き、その概要を理解する。			
2	休日に行った場所や食べたものをたずね合う。			
3	休日に楽しんだことや感想をたずね合う。			
4	休日の思い出について、お互いにインタビューする。			
5	休日の思い出について、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを紹介するスピーチを改善する。	○		
6 7	休日の思い出について、クラスの友達に紹介する。		○	○
8	単元の学習内容を振り返る。		○	○

単元の見通し

「休日の思い出を紹介しよう」という児童の興味・関心に合ったテーマを設定し、単元のゴールとなる言語活動（スピーチ）を行います。また、スピーチの最後にクイズを出し、友達に答えてもらう場面を設けることで、分かりやすく伝えようとする態度を育成します。帯活動のスマールトークでは、教師のモデルを参考に自分のスピーチのイメージをもったり、児童同士が既習表現を使って対話したりします。ゴールを意識した学習は、意欲の向上や協働的な学びにつながると考えます。



ICTの活用

聞き手の興味を引き付けたり、伝えたい内容をより分かりやすくしたりするために、タブレットを用いて、休日に行った場所や食べ物、クイズに関わる画像等を効果的に提示してスピーチをします。また、自分のスピーチをよりよくするために、友達とスピーチを録画し合い、視聴し、発音や表情などを確認してスピーチを改善していきます。目的を明確にした言語活動を繰り返し行うことにより、自分のスピーチをよりよく練り上げていくことができると考えます。

本時のねらい 休日の思い出について、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを紹介するスピーチを改善することができる。

この時間は、休日の思い出を紹介するスピーチを、相手に伝わるように練り上げていく時間です。班内でお互いに聞き合い、よかった点や改善点を伝え合った上で、改善を行います。その後、録画した自分のスピーチを視聴し振り返ることで、より相手に伝わるスピーチを目指します。

学 習 活 動

- ① スモールトークをする。
- ペアで昨日の出来事を1分間やり取りする。
 - What did you do?で会話を始める。
 - 教師のスピーチを聞き、本時のめあてを確認する。

グループの友達に休日の思い出を紹介しよう（クイズ付き）。

- ② スピーチの資料を整理する。
- 思い出の写真を伝えたい順に並べ、最後にクイズを出せるように資料を整理する。

- ③ 班内で発表し、助言する。
- お互いに思い出の紹介スピーチを行い、よかった点や改善点を伝え合う。

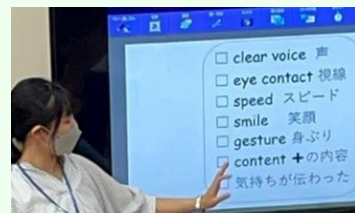
- ④ スピーチを録画し、振り返る。
- 友達からの助言を基に、スピーチを改善する。
 - 改善したスピーチを録画し合って、再度自分のスピーチを振り返る。

- ⑤ 本時の振り返りをする。
- タブレットで、振り返りシートに記入し、動画を添付して提出する。



本時の見どころはココ！

- 大型画面にスピーチのポイントを提示することで、自分のスピーチで意識することや友達への助言の観点が明確になります。
- 友達の助言を基に改善したスピーチを録画し合い、自分のスピーチを確認することで、ポイントに沿ったスピーチになっているか、客観的に捉えられるようにします。
- 録画した動画を再生し、気になる部分を何度も確認して改善することで、よりよいスピーチを目指します。

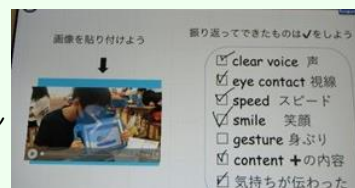


友達からアドバイスをもらって、声の大きさに気を付けたよ。みんなに聞こえるといいな。

身ぶりを入れて、話す速さに気を付けたから、伝わりやすくなってきたよ。



- はじめに提示された発表のポイントに沿って振り返ることで、自分のスピーチの改善を確認します。



児童の振り返り

わたしは、みんなに聞こえるように声の大きさを意識しながら話すことができました。友達は、前を見てスマイルでジェスチャーを付けて発表ができていたので、すごいと思いました。友達に休日の思い出やおいしかったものを発表できるのは、楽しいです。スマイルで発表できるようにがんばりたいです。

最後に、単元を振り返り、児童にどんな力が身に付いたか確認しましょう



単元のゴールとなるスピーチのモデルを教師から聞いたり、スモールトークで前時までの既習表現を積極的に活用してやり取りしたりすることで、見通しをもって活動に取り組むことができました。スピーチの最後にクイズを出すことは、自分の考えや気持ちなどを相手に伝えようとする態度の育成につながりました。提示する画像をタブレット上で入れ替えて、話す内容や順番を整理する活動や、録画機能を用いて自分のスピーチを視聴し改善する活動によって、自分のことを話す技能の向上につながったと考えられます。